

先日、前を歩いている方が、ビニール傘の真ん中あたりを左手で鷲掴みしているので、歩いて手が動いた時に、傘の先端が後ろに振られ、刺さりそうになり思わず避けました。自分の行動が周りにどう影響しているかを考えない危険な行為です。もし小さな子どもが後ろにいたらと思うとゾッとします。人権意識があれば、あのような傘の持ち方や歩き方はしません。普段の何気ない行動が、身勝手に人に迷惑をかけることもあります。これから梅雨の季節がやってきます。傘一つでも人権意識をもって行動したいものです。



山梨県の“孤独・孤立”対策について

皆さんのまわりに、誰にも頼れず、ひとりで悩みごとを抱えている人はいませんか？人の抱える孤立や孤独感は、“心と体の健康を大きく損なうリスク要因”です。人としっかりした“つながり”があるだけで、健康や幸福感が大きく高まります。政府は 2021 年に内閣府へ孤独・孤立対策推進室を設置し、総合的な対策に取り組むとともに、「あなたはひとりじゃない」という相談支援 Web サイトを運営しています。(※ 1)

山梨県が昨年発表した「山梨県・人々のつながりに関する基礎調査結果」では、回答者の 3 人に 1 人が孤独を感じており、困ったときに頼れる人がいない人は 7 割以上が孤独を感じている、とのことです。また、不安や悩みを抱えながらも、「支援の受け方がわからない」(20.6%) などの理由で行政や NPO 等の支援を受けていない人が、少なからず存在します。

そうした状況も踏まえ、山梨県(総合県民企画室)では、孤独・孤立に関する様々な悩みに対する相談先を「やまなしケアラー支援ポータルサイト」(※ 3)に掲載しています。また、山梨県社会福祉協議会と連携し、孤独・孤立対策を推進するとともに、地域における多様な主体との連携・協働による孤独・孤立状態にある方への支援体制を整備するため、「やまなし地域福祉応援・官民連携プラットフォーム」を設置しています。

また、同プラットフォームでは、やまなしの地域づくりを応援する Web サイト「わたあめ」を運営しています。(※ 4)この Web サイトでは、県内の各地域で行われている様々な“支え合い”の諸活動を記録し発信しています。その中の「であう」「つながる」「やってみる」の各ページでは、各種イベント紹介や百以上の参画パートナーの一覧、及びそれら団体の活動を紹介しています。よろしかったら是非ご覧いただき、関心のあるテーマの活動や団体にアクセスしてみたいはいかがでしょうか。

それから、山梨県内で“ひきこもりの人”の支援を行っている一般社団法人グッドライフジャパン(代表・川田史郎氏)では、「山梨県ひきこもり情報ポータルサイト“やまひぼ”」を運営しています。(※ 4)主に山梨県内やその近郊在住の、ひきこもり状態で困っている方、悩んでいる方、どうすればいいかわからない方やそのご家族、また、そのご家族に関わりのある支援者が、ひきこもりに関する情報や支援など網羅的に知ることのできるポータルサイトです。

その中の「掲載団体・活動一覧」では、県内外でひきこもり者支援を行っている諸団体の活動を、動画も含めていきいきと紹介しています。先述の Web サイト「わたあめ」とともに、この「やまひぼ」のご一覧をお勧めします。



(※ 1) 内閣府 孤独・孤立対策推進室「あなたはひとりじゃない」サイト



(※ 2) 山梨県「やまなしケアラー相談ポータルサイト」



(※ 3) やまなしの地域づくりを応援する情報メディア「わたあめ」



(※ 4) 山梨県ひきこもり情報ポータルサイト「やまひぼ」

今後の予定

人権移動教室 6月15日(月) 甲府市立北東中において、人権移動教室を開催します。

活動報告

人権移動教室 5月7日(木) 甲府市立国母小学校、5月18日(月) 甲府市立南西中にて、人権移動教室を開催しました。



人権移動教室の授業を受けた子供たちの感想文が、裏面にてご覧いただけます。



国連 NGO 横浜国際人権センター山梨ランチ
特定非営利活動法人横浜国際人権センター山梨

会長：横山隆史
理事長：横山美香

〒400-0031 山梨県甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1 階事務室
TEL. 055-243-8563 FAX. 055-243-8564 <http://yamanashi.yihrc.or.jp/> E-mail. yamanashi@yihrc.or.jp

< 協賛 >
山梨県
甲府市
甲斐市

人権移動教室に参加した子どもたちの感想文をご紹介します。

山梨県内小学校六年生女子

優しさの輪で人権が守られる世界へと

「自分の命と幸せを守るための権利」。講師の杉藤さんは、人権のことをこうおっしゃっていた。私は、この言葉にとってもおどろいた。自分の幸せを守っているのだろうかと思った。からだ。その後、国境なき医師団の方たちが自分の命をかけて人の命を助けていることを知った。私は、自分がとても幸せな環境にいることを実感した。そして、こわくなった。自分がこんなに恵まれた環境にいて、命も、幸せも、守られている時、他国には私なんか想像できないほどに苦しい生活をしている人がいる。その事実には、少ないだろう。未成年の私ができることは少ないだろう。しかし、人に優しくすることはできる。大勢の人が優しさを受け取り、優しさを伝えれば、その輪は、性別も、人種も、国境をもこえることができるだろう。自分の幸せを守るために、他の人を幸せにする。自分にできる方法で、優しさの輪を少しでも広げ、全ての人の人権を守ることができれば、世界を目指したい。

山梨県内小学校六年生女子

人権の尊厳の第一歩

人権。それは私にとって解り辛いものだった。だが、講師の杉藤さんは「人権は決して難しいものではない。まず、自分自身を守ることから始める。そして、自分の命と幸せを守る権利。これが人権。そして、自らの命と幸せを守るためにどうしたらよいか。それは他人を思いやること。私は普段から他人を優先で考えているだろうか。学校。家庭。公共の場。あらゆる場の全てでできていない。今すぐ人権を守るための行動をしなければ、と思った。私。何だろうか。他人の立場に立てているだろうか。人権を尊重しているだろうか。その一つひとつを考えられるようになった。私は、今日とはまた違う。まずは他人の立場に立って考えよう。今日とはまた違う、人権を守れるようになる為だ。